



(左上から時計回りに) アカメの子どもが育つ宮崎県の汽水域のコアマモの茂み▶目が赤いことから名前がついたアカメ▶物陰に潜むアカメの幼魚。体に独特の模様がある



## アカメ

学名 *Lates japonicus*

**分布** 東京湾から屋久島にかけての太平洋沿岸に生息する日本固有種。主な生息地は高知県と宮崎県の沿岸。

**大きさ** 80~100センチ  
**食性** 小魚やエビ、カニなどを捕食する肉食性

**特徴** 目が赤く見えることがあることからアカメの名前がついているが、地域によってミノウオ、マルカ、カワヌベ、オキノフナなど多くの呼び方がある。ルアー釣りの対象魚として人気があるが、宮崎県では保護のため釣りや捕獲は禁止されている。鹿児島県では太平洋側の志布志湾や内之浦湾、種子島・屋久島にかけて記録がある。

## 鹿児島では幻の巨大魚

高知県を流れる清流、四十万川にすむ巨大魚としてよく知られています。高知県や宮崎県では沿岸の岩場や、大きな川の河口に生息しています。鹿児島県でも以前は多く

生息していたと考えられ、鹿児島湾で捕まった記録もあります。しかし今では、鹿児島ではめったに見つからない幻の魚です。なぜ幻になったのでしょうか。水質汚染などの影響により、

## おもしろ生き物図鑑 かごしま水族館から

うか。川と海の水が交ざる汽水域には、コアマモなどの植物の茂みができます。アカメの子どもは、この中で育つことが分かっています。体に独特の模様があり、植物の間では見えにくく、敵から身を守っていると考えられます。しかし鹿児島県では、開発や水質汚染などの影響により、

コアマモの茂みがなくなり、育つ場が失われました。幻となってしまうアカメですが、2019年に内之浦湾で網にかかり、かごしま水族館にやってきました。やって来た時には体がボロボロに傷ついていて、今にも死にそうでしたが、健康を取り戻して、今では展示水槽を元気に泳いでいます。

小魚やエビ、カニなどを食べる肉食魚です。水族館でも生きた小魚しか食べないため、餌に苦労しました。さまざまな工夫の末、魚の切り身なども食べるようになり、展示水槽にデビュー。ところがある時同居する魚を食べてしまい、また魚の切り身を食べなくなってしまうました。餌の小魚を調達するのに苦労する日が続いています。(展示課魚類展示係主任・宮崎 亘)